

俳画展覧会を観て

芥川龍之介

青空文庫

俳画展覧会へ行つて見たら、先づ下村しもむらみさん為山みさんさんの半折はんせつが、
 皆うまいので驚いた。が、実を云ふと、うまい以上に高いのも
 驚いた。もつと尤もこれは為山みさんさんばかりぢやない。諸先生の俳画に對
 して、皆多少は驚いたのである。かう云ふと、諸先生の画ゑを輕けいべ
 蔑あつするやうに聞えるかも知れないが、決してさう云ふつもりぢ
 やない。それより寧ろ、頭むしのどこかに俳画と云ふものと、値段の
 安いと云ふ事とを結びつけるものが、あらかじ予め存在したと云つた方が
 適當である。

但し中には画そのものがくだらなくつて、しかも頗すこぶる高価なも
 のも全くなかつた訣わけじやない。が、あれは余りまづすぎるので、

人に買はれると、醜しうを後世に残すから、わざと誰も買はないやうな、高い値段づけをつけたんだらうと推察した。唯、さう云ふ画が二三点既すでに売約済ばいやくずみになつてゐたのは、誰よりも先づ描かいた人自身が遺憾あかんだつたのに違ひない。

それから句くぶつ上しやう人にんが、画を描かかせてもやはり器用なのに敬服した。上人は「勿もた体たいなや祖師そしは紙衣かみこの五十年」と云ふ句を作つた人である。が、上人の俳画は勿論祖師そしでも何なんでもないから、更に紙衣かみこなんぞは着てゐない。皆この頃の寒空を知らないやうに、立派りつぱな表装を着用してゐる。

その次に参考品の所で、浅井黙語先生あさゐもくごの画を拝見した。これは非売品だから、値段おとに脅おどされない丈だけでも、甚だ安全なものである。

が、そんなことを眼中に置かないでも、鳳凰ほうわうや羅漢らかんなんぞは、至極しごく結構な出来だと思ふ。あの位達者で、しかもあの位きひん気品のある所は、それこそ本式に敬服の外ほかはない。

最後に夏目漱石なつめそうせき先生の南山松竹なんざんしょうちくを見て、同じく又敬意を表した。先生は生前、「己おれは画でも津田つだに頭を下げさせるやうなものを描かいてやる」と力りきんでゐられたさうである。そこで津田青楓ふうさんに御相談申し上げるが、技巧は兎も角かくも、気品きひんの点ちへ行くゆと、先生の画の中には、あなたが頭を御下おさげになつても、恥はしくないものがありやしませんか。これは私わたし自身が頭を下げるから、さうして平生あなたがかう云ふ問題には公明正大な事をよく承知してゐるから、それで伺うかがつて見たいと思ふ。

前に書き忘れたが、鳴雪翁めいせつをうの画も面白く拝見した。昔、初はつう午まに稲荷いなりへ行くと、よく鳥居をくぐる途みちに地口ぢぐちの行燈あんどんがならんでゐた。あれはその行燈の絵を髣髴はうふつさせる所が甚だ風流である。

まだいろいろ思ひついた事があるが、目下もくか多忙の際だから、これだけで御免ごめんを蒙かうむりたい。

(大正七年十一月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

俳画展覧会を観て

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>